

浜田駅周辺グランドデザイン策定に向けたヒアリングの主な意見

1 ヒアリングの概要

浜田駅周辺グランドデザインの策定にあたり、商店街、宿泊事業者、飲食事業者、水産事業者、農業関係者、文化団体、教育機関、子育て支援団体、創業支援機関、学生、行政など、幅広い分野の関係者へのヒアリングを実施した。ヒアリングでは、駅周辺の現状や課題だけでなく、浜田らしい暮らしや将来のまちのあり方について意見を伺った。

ヒアリング期間：令和8年5月25日～7月28日

ヒアリング実施：54件

2 ヒアリングの主な意見

(1) 駅周辺・中心市街地の現状認識

- ・かつて駅前や商店街は商業機能や交流機能の中心であったが、人口減少や郊外化により来街者が減少している。
- ・商店街では店舗の住宅化や倉庫化が進み、まちに開かれた空間が減少している。
- ・空き店舗に見えても、荷物の残置や老朽化などにより、すぐに活用できない物件が多い。
- ・宿泊者は一定数存在するが、観光客よりも出張・長期滞在者が多い。
- ・駅前に降り立っても滞在できる場所や過ごせる場所が少ない。
- ・浜田駅周辺は中心市街地であるにもかかわらず、医療、行政、商業、居住等の都市機能が分散しており、駅前の求心力が低下している。
- ・駅前に「行く目的」がないことが、駅前衰退の大きな要因となっている。
- ・全国的に駅前の賑わいが低下する中、浜田駅でも「駅へ行く目的」の減少が人流減少の大きな要因となっている。
- ・地域資源そのものよりも、新しいことに挑戦する「プレイヤー」の不足が、地域活性化の大きな課題である。

(2) 空き店舗・不動産活用

- ・空き店舗活用の最大の課題は所有者との調整である。
- ・貸したい意思はあっても片付けや改修費用が負担となっているケースが多い。
- ・若者や創業者が挑戦できる安価な物件が不足している。
- ・不動産情報を集約し、活用可能な物件を見える化する必要がある。
- ・朝日町周辺は空き物件があっても駐車場が不足しており、活動拠点やイベント会場として活用しにくい。
- ・中心市街地の地価・家賃が高止まりしており、新規事業者や若い世代が駅周辺へ出店・居住しにくい。
- ・まちづくりが単発イベントで終わることが多く、PDCAを回しながら改善する

仕組みが不足している。

- ・駅前では世代交代に伴い空き家や老朽化した建築物が増加しており、土地・建物を再編できる好機でもある。

(3) 創業・小商いの可能性

- ・飲食店に加え、習い事、教育、体験型サービスなどに可能性がある。
- ・副業や小規模事業など「小商い」が増えている。
- ・創業者が試験的に出店できる場が求められている。
- ・若い世代が挑戦しやすい環境づくりが重要である。
- ・起業を目指す人はいるが、集客や市場ニーズの把握など実践的なビジネススキルを学ぶ機会が求められている。
- ・地域食材を生かした新規創業の動きも見られる。
- ・ボードゲームを活用した交流拠点など、趣味を軸にした小規模な事業が地域の交流拠点となっている事例もある。
- ・シェアキッチンやチャレンジショップなど、小さく始められる環境整備が重要である。

(4) 食・観光コンテンツの活用

- ・観光客は、魚介類や赤天など浜田らしい食を求めているが、駅周辺では浜田が魚のまちということが伝わっていない。
- ・水産資源が観光消費へ十分につながっていない。
- ・郊外の魅力的な飲食店や料理人を駅前に呼び込む仕組みが有効ではないか。
- ・観光客が宿泊し、夜の消費につながる仕掛けが必要である。
- ・浜田市内の水産加工業者は、かつて約 60 社あったが現在は約 20 社まで減少しており、事業者間の連携強化が求められている。
- ・駅前へ地魚を卸す飲食店は限られており、「浜田に来たら昼でも地魚が食べられる」環境が十分に整っていない。
- ・ノドグロだけでなく、アナゴやバトウ、イカなど多様な魚種を生かした名物づくりが必要である。
- ・弥栄地域の有機農産物など、水産以外の食資源も含めた発信の強化が期待される。
- ・スポーツ合宿の誘致や旅行商品化など、宿泊需要の多様化に向けた取組も進められている。

(5) 石見神楽・歴史文化資源の活用

- ・神楽の集客力は高いが、駅前で神楽に触れられる機会が少ない。
- ・神楽を飲食や交流と組み合わせるべき。
- ・浜田には港町、城下町、軍都などの歴史があるが、発信が十分でない。
- ・石見地域は全国的な認知度が低く、知られていないことが誘客拡大の最大の課題である。

- ・浜田市単独ではなく、益田市・江津市・大田市など石見圏域全体で連携した広域観光の推進が重要である。

(6) 三桜酒造跡地への期待

- ・イベント、交流、文化の発信、チャレンジの場など柔軟な空間が望ましい。
- ・キッチンカー、屋台、市場などが定期的開催される場にしてほしい。
- ・雨天でも利用可能な空間が必要である。
- ・市民や観光客がともに利用でき、くつろげる空間であってほしい。
- ・駅周辺の各施設をつなぐ場所にしてほしい。
- ・マルシェや朝市を定期的開催し、市民の生活に定着させてほしい。
- ・中高生が放課後や休日に安心して集まれる居場所としての活用を期待している。
- ・駐車場を過剰に整備すると周辺の交通混雑を招くおそれがあり、必要最小限にとどめるべき。

(7) 教育・人材育成

- ・子どもや若者が地域で学び、活動できる場が必要である。
- ・趣味、ものづくり、eスポーツ、プログラミング等を通じた人材育成に可能性がある。
- ・高校生や大学生が地域活動に関わる機会を増やすべきである。
- ・地域の魅力を発見し発信する教育にも意義がある。
- ・浜田市では不登校児童生徒が増加しており、多様な学びの場が重要になっている。
- ・書店やブックカフェなど、子どもの知的好奇心を育む文化的な接点の再生が求められている。
- ・3Dプリンターやメタバース、VRなどのデジタル技術を活用した人材育成にも可能性がある。
- ・駅前の将来像が明確になれば地域づくりに参加したい。

(8) 健康・福祉、広域連携等

- ・浜田市は自動車利用が中心で、市民が日常的に歩く機会が少ない「歩かないまち」となっている。
- ・健康寿命の観点からも、駅周辺から浜田川沿い、東公園までを一体的なウォークブル空間として整備してほしい。
- ・全国的に駅前の賑わいが低下する中、「駅へ行く目的」の創出や、旅行商品化による誘客が重要と考えている。